

学校改善プラン（芦別市小学校）

1. 実施期間 令和5年8月～令和6年4月

2. 令和5年度学力・学習状況調査の結果概要（学力）

	国 語	算 数	国 語					算 数				
			知識・技能		思考力・判断力・表現力			数 と 計 算	図 形	測 定	変 化 と 関 係	デ ー タ の 活 用
			関 係 する 事 項	言 葉 の 特 徴	情 報 の 方 法	話 す こ と	書 く こ と					
芦別市	59	54	61.7	58.5	64.5	12.8	65.2	53.5	42.6	設 問 な し	65.4	54.6
北海道	66	61	69.7	61.8	72.0	23.5	69.7	64.4	48.7		69.0	55
全 国	67.2	62.5	71.2	63.4	72.6	26.7	71.2	67.3	48.2		70.9	56.5

2-

□□分析結果□□

- ◆国語 全国の平均正答率との差は-8.2%とかなり開きがある。領域別では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「書くこと」が特に低い。問題ごとの無解答率では、記述式問題で25～35%と全国の10～15%と比べかなり高い傾向にある。
- ◆算数 全国の平均正答率との差は-8.5%とかなり開きがある。領域別では、「データの活用」は、ほぼ全国と同様だったが、「数と計算」が全国比-13.8%低かった。無解答率が16問中10問で10%を超えている。記述式問題の4問中3問で20%を越え特に高かった。

学校改善プラン（芦別市立芦別小学校）

1. 実施期間 令和5年8月～令和6年4月

2. 令和4年度学力・学習状況調査の結果概要（学力）

	国語	算数	国語				算数					
			知識・技能		思考力・判断力・表現力		数と計算	図形	測定	変化と関係	データの活用	
			読や書する ための 力の特 徴に 関	読 する こと	説 明 の 方 法	書 く こ と						読 む こ と
高い												
やや高い												
ほぼ同様（上位）												
同様												
ほぼ同様（下位）												
やや低い												
低い	○				○							
相当低い		○	○	○		○	○	○	○	○	○	○

□分析結果□

- ◆国語 全ての領域において全国および全道より低く、特に「書くこと」の領域が大きく差が見られた。
- ◆算数 全体的に相当低く、基礎・基本の定着を図らなければならない。「振り返り」の時間確保と内容を改善する。

≪基準～全国の正答率との差≫

- ◇同様 … ±1ポイント未満
- ◇ほぼ同様（高い・低い） … ±1以上～3未満
- ◇やや高い（やや低い） … ±3以上～5未満
- ◇高い（低い） … ±5以上～7未満
- ◇相当高い（相当低い） … ±7以上

4. 改善に向けた取組

(1)数値目標

- ①全国学力・学習調査・CRTの国語・算数ともに全国平均と同様とする。
- ②毎日の家庭学習の習慣化率（学年×10分+10分）80%以上。
- ③児童質問紙で、「算数の授業内容がわかる」と回答する子が90%以上。
- ④児童質問紙で「自分には良いところがある」と回答する子が80%以上。
- ⑤児童質問紙で「学校へ行くのは楽しい」と回答する子が90%以上。

(2)具体的な改善策

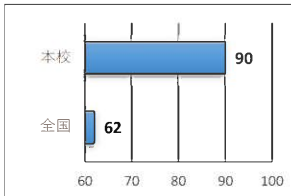
- ①「対話的・主体的で深い学び」に向けた授業改善
 - ・グループ活動でタブレットを使い自分の考えを発表・交流する。
 - ・板書の掲示を統一し、「見通す」「話し合う」「まとめる」「振り返る」という授業スタイル（芦別スタンダード）を定着・徹底させる。
- ②学習規律の徹底
 - ・チャイム席、机上整理、学習の仕方等全校統一指導の徹底を図る。
 - ・中学校と連携し、9年間を見通した学習規律の共有を図る。
- ③家庭と連携した学習習慣・生活習慣の確立
 - ・デジタルドリルを活用し、基礎基本の定着を図る。
 - ・「生活リズムチェックシート」を活用し、家庭との協力により家庭学習定着率の向上、「早寝早起き朝ごはん」の定着を図る。
 - ・朝読書・家読書の定着・習慣化に努め、年間10冊以上を目標。
- ④健康な体作りと体力向上
 - ・新体カテストの全学年の実施と一校一実践の継続。

3. 令和5年度学力・学習状況調査の結果概要（児童質問紙）

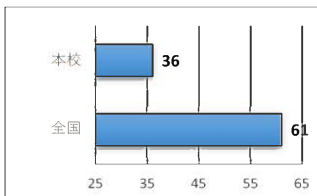
※「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計

(1)学習について

①国語の勉強が好きだ

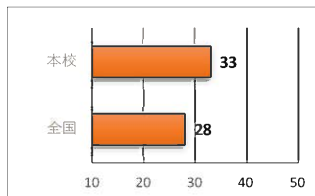


③算数の勉強が好きだ



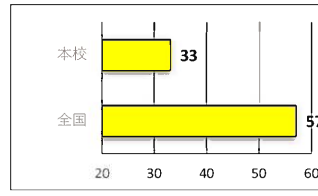
(2)ICTの活用

①授業でタブレットを毎日使用している



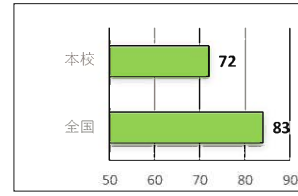
(3)家庭学習の習慣化と読書

①普段の勉強時間（1時間以上）



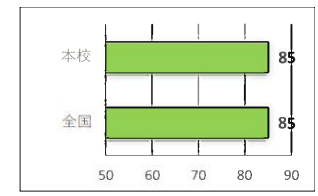
(4)豊かな心の育成

①自分にはよいところがある

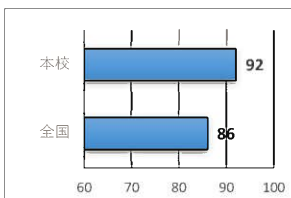


(5)学校生活

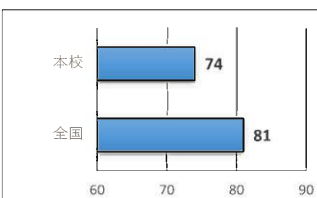
①学校へ行くのは楽しい



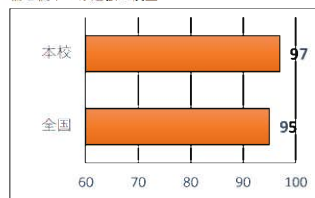
②国語の授業の内容がよく分かる



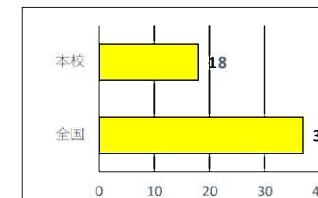
④算数の授業内容はよくわかる



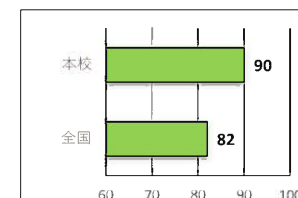
②学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強に役立つ



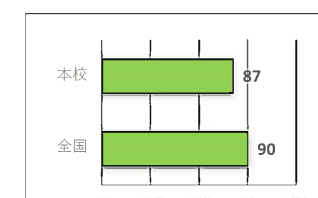
②読書の時間（1日30分以上）



②将来の夢や目標を持っている



②友達関係に満足している



学校改善プラン（芦別市立上芦別小学校）

1. 実施期間 令和5年8月～令和6年4月

2. 令和5年度学力・学習状況調査の結果概要（学力）

	国語	算数	国語					算数				
			知識・技能		思考力・判断力・表現力			数と計算	図形	変化と関係	データの活用	
			読むこと 書くこと 話すこと 聞くこと	読むこと 書くこと 話すこと 聞くこと	読むこと 書くこと 話すこと 聞くこと	読むこと 書くこと 話すこと 聞くこと	読むこと 書くこと 話すこと 聞くこと					
相当高い												
高い												
やや高い												
ほぼ同様（上位）												
同様		○										
ほぼ同様（下位）												
やや低い												
低い												
相当低い	○		○		○	○		○				○

分析結果

◆国語 全国の平均正答率を1.2ポイント下回った。領域別では、「情報の扱いに関する事項」が全国より8ポイント高かったが、その他の領域はが全国より低かった。記述式問題の正答率が低く、無回答率も多かった。

◆算数 全国の平均正答率を0.5ポイント上回った。領域別では、「数の計算」「データの活用」が全国を下回ったが、「図形」「変化と関係」が全国より高かった。知識・技能に関する問題は全国をやや下回ったが、思考・判断・表現に関する問題は上回った。

基準～全国の正答率との差

◇同様 … ±1ポイント未満

◇ほぼ同様（高い・低い） … ±1以上～3未満

◇やや高い（やや低い） … ±3以上～5未満

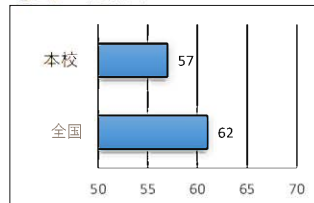
◇高い（低い） … ±5以上～7未満

◇相当高い（相当低い） … ±7以上

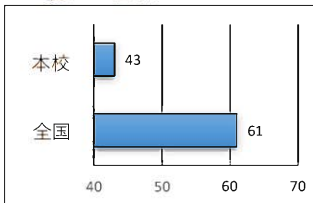
3. 令和5年度学力・学習状況調査の結果概要（児童質問紙）

(1)学習について

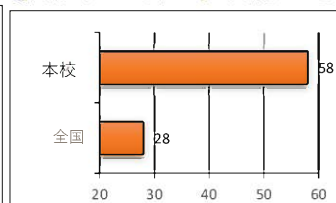
①国語の勉強が好きだ



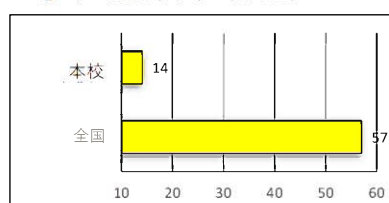
③算数の勉強が好きだ



①授業でタブレットを毎日使用している

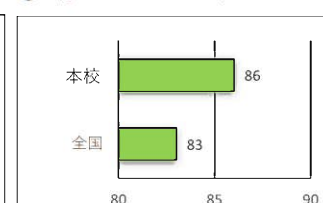


①普段の勉強時間（1時間以上）



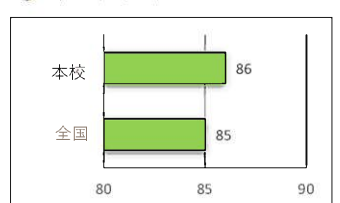
(4)豊かな心の育成

①自分にはよいところがある

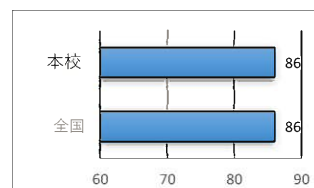


(5)学校生活

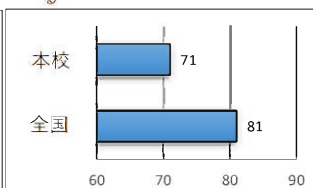
①学校へ行くのは楽しい



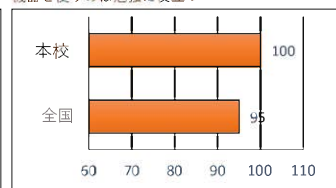
②国語の授業の内容がよく分かる



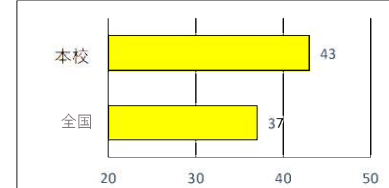
④算数の授業内容はよくわかる



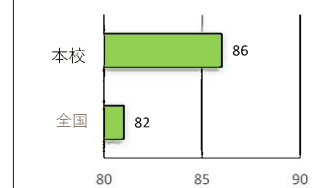
②学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強に役立つ



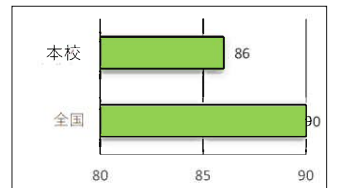
②読書の時間（1日30分以上）



②将来の夢や目標を持っている



②友達関係に満足している



4. 改善に向けた取組

(1)数値目標

- ①全国学力・学習調査・CRTの国語・算数ともに全国平均と同様とする。
- ②毎日の家庭学習習慣化率（学年×10分+10分）80%以上
- ③3年生以上漢字検定、算数検定受検80%以上
- ④アンケートで「学校の勉強はよくわかる」と回答する児童90%
- ⑤アンケートで「授業中自分であってや取組方を強めて学習している」と回答する児童80%
- ⑥アンケートで「読書が好き」と回答する児童80%以上
- ⑦アンケートで「自分にはよいところがある」と回答する児童90%以上

(2)具体的な改善策

①授業づくり～指導方法等の工夫改善

- ・授業交流月間等お互い学び合う研修体制を構築することで「見返す」「振り返り」等の指導過程の統一を図る。（芦別スタンダードの定着・深化）
- ・日々の授業改善を積み重ね、研修部が中心となりタイムマネジメント、発問の工夫、評価の充実、板書等教師力向上を目指すことで、その効果を児童の学力向上に結び付けていく。
- ・各学年ICT活用スキル表を基にICT活用の質の向上を高め、個別最適な学び、協働的な学びの充実を図る。
- ・メンター研修やOJTを取り入れ、同僚性を生かした教師力向上に努める。

②環境づくり～授業以外の学習の機会や時間の充実

- ・「学習規律の徹底」に取り組み、学びに向かう力を育む学習集団作りを構築する。
- ・パワプロ週間、上小っ子ドリル等を活用し、基礎・基本の定着に取り組む。
- ・長期休業中の学習サポートや放課後学習等を実施し、個々の学習到達に応じた学びの充実を努める。

③習慣作り～自ら学習する習慣、生活リズム

- ・全国学力、学習状況調査及び児童アンケートの分析結果を保護者に公表し、家庭における学習習慣や読書週間、生活リズムの確立を促す。
- ・家庭学習がばりシート等をもとに家庭学習の習慣化に努める。取り組んだ家庭学習を交流し合うことで家庭学習に対する児童の意識・意欲を高める。
- ・朝読書、ブックトーク、市立図書館との連携等を通して、読書活動の充実を図る。

学校改善プラン（芦別市立中学校）

1. 実施期間 令和5年8月～令和6年4月

2. 令和5年度学力・学習状況調査の結果概要（学力）

	国 語	数 学	英 語	国 語						数 学				英 語			
				能 技 び 及 識 知			思考力・判断力・表現力等			数 と 式	図 形	関 数	デ ー タ の 活 用	聞 く こ と	読 む こ と	話 す こ と	書 く こ と
				使 言 語 の 特 徴 や 方	情 報 の 扱 い	語 わ 文 が 化 国 の 言	聞 話 く す こ と と	書 く こ と	読 む こ と								
芦別市	62	38	40	60.6	45.2	69.2	76.3	56.7	57.7	48.8	23.1	42.3	28.8	51.6	48.4	6	14.6
北海道	69	49	44	66.4	63.7	74.5	81.8	62.1	63.3	61.7	32.9	49.7	44.5	58.1	48.7		21.1
全 国	69.8	51.0	45.6	67.5	63.4	74.7	82.2	63.2	63.7	63.0	33.2	51.2	48.5	58.4	51.2	12.4	23.4

5

□□分析結果□□

- ◆国語 ・全体の平均正答率は全国と比べ-7.8ポイントと低い状況にある。領域別で見ると、知識及び技能の「情報の扱い方」が特に低い。思考力・判断力・表現力等は全ての領域で全国より低い。無解答率は、記述式問題で若干低いものの全国とほぼ同様である。
- ◆数学 ・全体的の平均正答率は全国と比べより-13.0ポイントと相当低い状況にある。領域別では、特に「数と式」「データの活用」が低い。国語と比べ、全体的に無解答率が高い。解答時間が足りなかったことがうかがえる。基礎的な問題の正答率が低いことが全体的な正答率を下げたと言える。
- ◆英語 ・全体の平均正答率は全国と比べ5.6ポイント低い。領域別で見ると、「読むことは」はほぼ全国と同様だったが、「書くこと」の領域が全国と比べかなり低かった。無解答率を見ると後半の「書くこと」の問題で高かった。「話すこと」の領域は、今年度は抽出校（全国で400校）

※英語の話すことについては、オンラインでの実施（北海道記載なし）

学校改善プラン（芦別市立芦別中学校）

1. 実施期間 令和5年8月～令和6年4月
 2. 令和5年度学力・学習状況調査の結果概要（学力）

	国語	数学	英語	国語					数学				英語				
				知識及び技能			思考力・判断力・表現力等		数と式	図形	関数	データの活用	聞くこと	読むこと	話すこと	書くこと	
				言葉の使い方の特徴	情報の扱い	言葉が文化の	話の聞きこと	書くこと									読むこと
高い																	
やや高い																	
ほぼ同様（上位）																	
同様																	
ほぼ同様（下位）																	
やや低い																	
低い																	
相当低い	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

□□分析結果□□

- ◆国語 ・全体的には全国の平均正答率と同様だった。領域別では、「わが国の言語文化」「読むこと」が全国より高かったが、「情報の扱い」「聞くこと・話すこと」領域が全国よりやや低かった。
- ◆数学 ・全体的には、全国の平均正答率とほぼ同様（下位）だった。領域別では、「図形」が全国を上回ったが、「データの活用」がやや全国より低かった。
- ◆英語 ・全体的には全国の平均正答率と同様だった。領域別では、平均正答率で「書く」が全国と比べやや低かった。「書くこと」の無解答率が

＜基準～全国の正答率との差＞

- ◇同様 … ±1ポイント未満
- ◇ほぼ同様（高い・低い） … ±1以上～3未満
- ◇やや高い（やや低い） … ±3以上～5未満
- ◇高い（低い） … ±5以上～7未満
- ◇相当高い（相当低い） … ±7以上

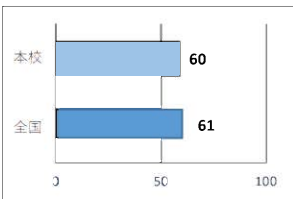
4. 改善に向けた取組

- ①数値目標
- ①全国学力・学習調査・CRTの国語・数学ともに全国平均と同様とする。
 - ②毎日の家庭学習の習慣化率（学年×10分＋70分）80%以上。
 - ③生徒アンケートで「数学の勉強が分かる」と回答する生徒が80%以上。
 - ④生徒アンケートで「自分には良いところがある」と回答する生徒が80%以上。
 - ⑤生徒アンケートで「学校へ行くのは楽しい」と回答する生徒が80%以上。
- ②具体的な改善策
- ①単位時間のタイムマネジメント（導入・展開・まとめの指導時間の配分）、見通す・振り返るなどの基本的な指導過程（芦別スタンダード）及び単元の指導計画の工夫等について、校内研修を中心とした共通理解を回り、授業改善を推進する。
 - ②AIドリル・個人タブレット等の効果的な活用を回り、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。とりわけ、タブレットPCを活用する場面（意見等の交流・補習発展）を単位時間や単元指導計画等の中で工夫する。
 - ③タブレットPC、学習支援アプリの効果的な活用について、校内体制を整備（ICT担当教諭の配置等）し、教科等の授業での効果的な活用を回り、教科等のねらいの実現を図る。
 - ④指導方法工夫改善に関わる加配教員の活用と年間指導計画を工夫し、習熟度別指導や他学年等の振り返りや繰り返し指導等、数学科における基礎的・基本的な指導事項の確実な定着を図る。
 - ⑤学力学習状況調査CRT等の分析結果から、個々の生徒の課題を学年部で共有し、加配教員・学習サポート教員等を活用し、繰り返し指導するなどして基礎的・基本的な指導事項の確実な定着を図る。
 - ⑥校区小学校と連携し、義務教育9年間のゴールを共有した教育課程を編成し校区の学びの連続性を確保する。（芦別市小中一貫教育協議会等の連携）

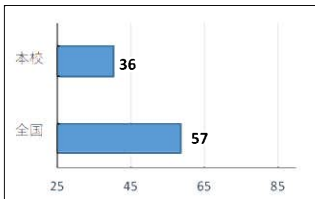
3. 令和5年度学力・学習状況調査の結果概要（生徒質問紙）

①学習について

①国語の勉強が好きだ



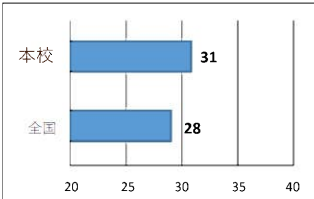
③数学の勉強が好きだ



※「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計

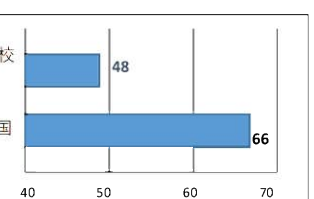
②ICTの活用

①授業でタブレットを毎日使っている



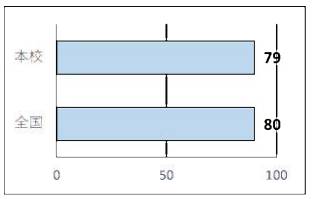
③家庭学習の習慣化と読書

①普段の勉強時間（1時間以上）



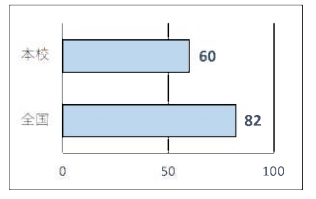
④豊かな心の育成

①自分にはよいところがある

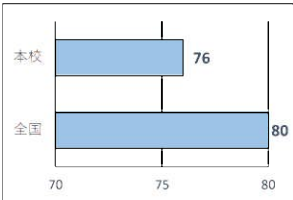


⑤学校生活

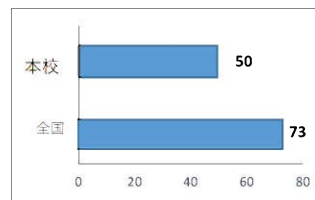
①学校へ行くのは楽しい



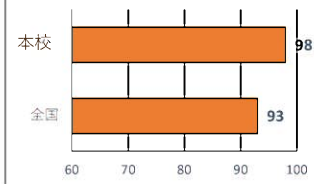
②国語の授業の内容がよく分かる



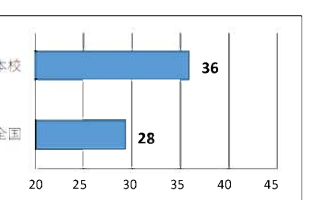
④数学の授業内容はよくわかる



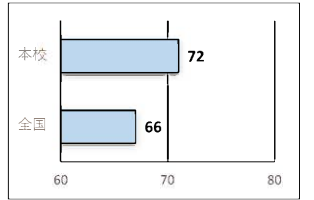
②学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強に役立つ



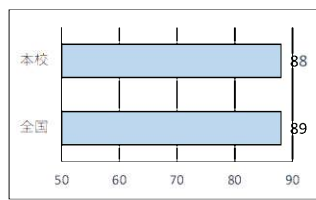
②読書の時間（1日30分以上）



②将来の夢や目標を持っている



②友達関係に満足している



学校改善プラン（芦別市立啓成中学校）

1. 実施期間 令和5年8月～令和6年4月
 2. 令和5年度学力・学習状況調査の結果概要（学力）

	国語	数学	英語	国語						数学				英語			
				知識及び技能			思考力・判断力・表現力等			数と式	図形	関数	データの活用	聞くこと	読むこと	話すこと	書くこと
				言葉の文化	情報の扱い	言葉の文化	話すこと	書くこと	読むこと								
高い							○	○	○					○	○		
やや高い																	
ほぼ同様（上位）				○		○				○							
同様	○		○														
ほぼ同様（下位）										○							
やや低い																	
低い		○															
相当低い					○								○				○

□□分析結果□□

◆国語 ・全体的には全国の平均正答率と同様だった。領域別では、「わが国の言語文化」「読むこと」が全国より高かったが、「情報の扱い」が16ポイント～30ポイント低い結果となった。

◆数学 ・全体的には、全国の平均正答率とほぼ同様（下位）だった。領域別では、数と式が設問によっては、20ポイント上回るが、「データの活用」がやや全国より低かった。

◆英語 ・全体的には全国の平均正答率と同様だった。領域別では、平均正答率で「書く」が全国と比べて10ポイント程度低かった。「書くこと」で、正答率0%の設問もあった。

《基準～全国の前正答率との差》

◇同様	… ±1ポイント未満
◇ほぼ同様（高い・低い）	… ±1以上～3未満
◇やや高い（やや低い）	… ±3以上～5未満
◇高い（低い）	… ±5以上～7未満
◇相当高い（相当低い）	… ±7以上

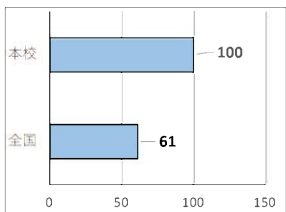
4. 改善に向けた取組

- (1)数値目標
- ①全国学力・学習調査・CRTの国語・数学ともに全国平均と同様とする。
 - ②「毎日1時間以上家庭学習を行う」生徒の割合が65%以上。
 - ③生徒アンケートで「数学の勉強が好き」と回答する生徒が95%以上。
 - ④生徒アンケートで「友達関係に満足している」と回答する生徒が85%以上。
 - ⑤生徒アンケートで「学校へ行くのは楽しい」と回答する生徒が95%以上。
- (2)具体的な改善策
- ①「対話的・主体的で深い学び」に向けた授業改善
 - ・ICTを全ての教員が授業で活用し、生徒が考えを表したり、共有することをとおして、共に学び、成長する機会を保障する。
 - ②授業改善の推進
 - ・校内研修等をおして学び続け、その成果を授業に生かすよう努める。
 - ・全国学テの結果の分析を着実にを行い、生徒が伸ばすべき力を把握する。
 - ③家庭と連携した学習習慣・生活習慣の確立
 - ・生徒会活動で、読書週間を設け、読書の時間を増やす。
 - ・タブレットを家庭で利用しA1ドリルに確実に取り組む。
 - ・就寝1時間前の電子機器を読書に替えるなど生活習慣を改善する。
 - ④健康な体作りと体力向上
 - ・家庭と連携し早寝早起きなど生活習慣の改善を促す。

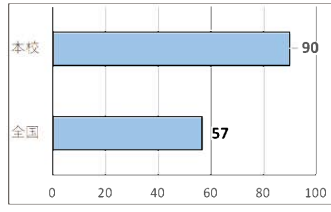
3. 令和5年度学力・学習状況調査の結果概要（生徒質問紙）

(1)学習について

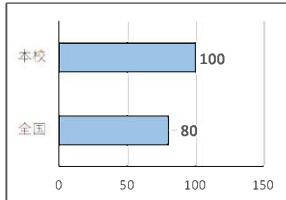
①国語の勉強が好きだ



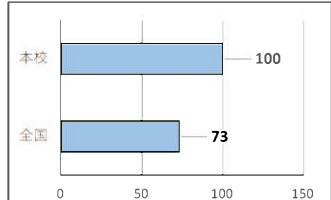
③数学の勉強が好きだ



②国語の授業の内容がよく分かる



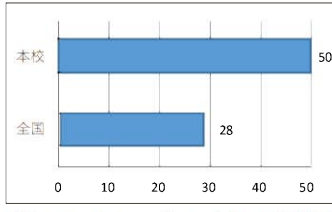
④数学の授業内容はよくわかる



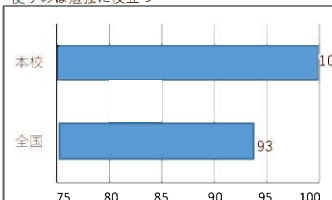
※「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計

(2)ICTの活用

①授業でタブレットを毎日使っている

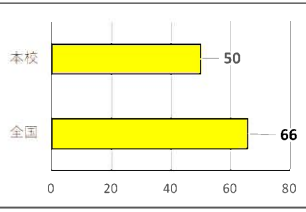


②学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強に役立つ

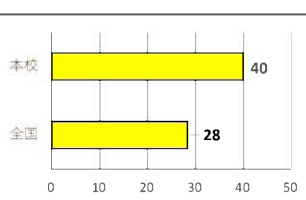


(3)家庭学習の習慣化と読書

①普段の勉強時間（1時間以上）

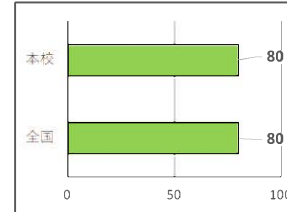


②読書の時間（1日30分以上）

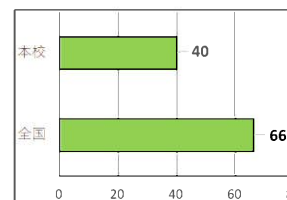


(4)豊かな心の育成

①自分にはよいところがある

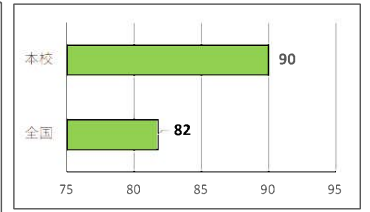


②将来の夢や目標を持っている



(5)学校生活

①学校へ行くのは楽しい



②友達関係に満足している

